

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life

1
2018

VOL. 148



開祖随感

神仏に感応する行

寒修行が始まりました。厳しい寒さの真っ盛りに、毎朝、真っ暗闇の中を道場にかけてつけて、一心に経典を読誦する……。

その修行を終えると、体の隅々から心の芯まで清らかに became 気持ちが出てきます。この清浄感から神仏のみ心に感応する境地が生まれてくるのですね。

二十世紀の世紀末を迎えたこれからの十年間に、私たちがどのような祈りを持ち、どのような行動をとるかによって、やがて迎える二十一世紀の世界は大きく変わっていきます。いま、世界が乗り越えな

ければならない問題がどんなに巨大なものに見えようとも、一人ひとりが自分を本当に変えていく修行に取り組むことから出発すれば、必ず解決の道が見えてくるはずです。

うっかりすると、すぐ我欲・我見に振り回されてしまう自分を滅する修行を通して、神仏の智慧を頂戴したいと真剣に願う仲間を、一人、また一人と増やしていくことこそ、いま私たちにとっていちばん大事なつとめでありましょう。この寒修行を通して、心を新たにしたいものです。

(1997年刊『開祖随感』9 P. 16-17)

Living the Lotus 2018年1月号 (Vol.148)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 金尾江利子

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教団体です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



明るく、朗らかに

立正佼成会会長 庭野日鑛

自らを灯として

元日の朝を「元旦」といいますが、「旦」^{かんたん}とは、ご承知のように地平線から太陽があらわれ出た姿をかたどった文字です。元朝^{がんちょう}の日の清^{すがすが}しい輝きを受けて、新年を迎えた私たちの身心はいきいきと発動し、一年が始まります。

さて、そうしてはじまる一年を、みなさんはどのように歩んでいきたいと願っているでしょうか。

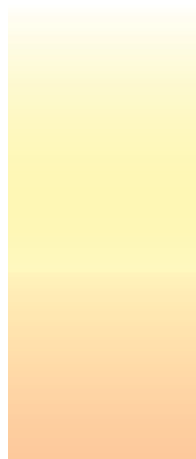
それぞれに思うところ、期するものがあると思いますが、だれにも共通するのは、一年をとおして明るく、朗らかにすごしたいという願いでしょう。

そうであれば、ぜひ忘れずにいたいことがあります。それは、私たちに生きるエネルギーを与えてくれる太陽のように、まずは自ら^{みづか}明るく朗らかになって、人を^{なご}和ませ、喜ばせることです。ときには人に励まされ、他の人の明るさに癒^{いや}されることもあるでしょうが、自ら明るく朗らかに生きる——それが大切だと思います。

ただ、「生まれつき陽気な人でない限り、それは難しい」と諦め、ため息をつく人がいそうです。しかし、諦めることはありません。

仏教では、自灯明^{じとうみょう}・法灯明と教えています。

自灯明^{ともしび}は「自らを灯として生きる」ということですが、それは「何にも左右されない確固たる生き方の芯^{しん}がある」ということです。そしてその「芯」となるのは、自分を含むすべての人が、かけがえのない命を、いまここに自ら生きているという揺るぎない「信念」で、いま命あることへの「感謝」が、芯を明るく^{とも}灯しつづけるのに必要な「油」といえるのではないのでしょうか。



法をよりどころに

「足無し^{ぜんじ}禪師」と呼ばれた禪僧がおられます。昭和二十年、二十五歳のときに朝鮮半島で敗戦を迎え、抑留先のシベリアで両足に凍傷を負って両膝から下を切断した方です。不自由な体で日本に帰るまでの^{かんなんしんく}艱難辛苦と、二十六歳で帰国してから苦悩は、私たちの想像を絶するものだと思います。ところが二十七歳のとき、その方、小沢道雄師は「ひらめきに似た心の光」を得たといいます。「そうか、人と比べるから苦しむのだ」——そして師は、思いを定めるのです。

「比べる心のもととは二十七年前に生まれたということだ。二十七年前に生まれたことはやめにして、両足を切断したまま、きょう生まれたことにしよう。きょう生まれた者には一切がまっさらなのだ。本日ただいま誕生だ!」

その日以来、「本日ただいま誕生」の言葉を胸に、「いつもにこやかにしよう」「ありがとう、必ず感謝しよう」を心がけて、^{おんがん}温顔の仏道人生を歩まれたということです。

明るく、朗らかに生きるというとき、陽気な性格や環境に恵まれていても、いなくても、要は何を心の芯に^す据えるかが大事で、私たち仏教徒にとっては、それが仏法（ご法）であることを、この小沢師が明快に示してくださっているのではないのでしょうか。そしてこれが、法を灯として生きる——法灯明でありましょう。

また、見方を変えれば、ほんとうの明るさ、朗らかさは、苦悩を突き抜けた先にあるともいえますが、苦悩を突破するには、先に述べた「生き方の芯」とともに、さまざまな^{こころざし}思わくにとらわれないで心を一つに向かわせる「志」をもつことが大切です。

俳人^{たかはまきよし}の高浜虚子が、新年に当たって「年改まり人改まり行くのみぞ」という力強い一句をのこしています。この句のごとく、一人ひとりが「自らを新たにする」という清新な心意気をもって、明るく朗らかに一年をすごしていこうではありませんか。

（『佼成』2018年1月号）





仏さまの大きなはからいの中で

ニューヨーク教会
高橋晶子

この説法は2016年10月4日の開祖さま入寂会式典の際に発表されたものです。

開祖さまご入寂会の大切な日にお説法のお手配をいただき、まことにありがとうございます。

主人の転勤に伴い、私は昨年4月末からアメリカのマサチューセッツ州レキシントンで暮らしています。まだアメリカに来る前の昨年のお正月のことです。既に赴任していた主人が日本に一時帰国していたときのこと、運転中に目がよく見えないと言い出し、様子がおかしいので信号で止まったのを機に、私と運転を交代しました。その直後に主人は痙攣を起こし、声をあげて意識を失ってしまったのです。「主人が死んでしまう!」私は恐怖でいっぱいになり、車を止めて助けを求めました。すると、「医療の知識があります」と言って駆けつけてくれた方が主人の脈をとってください、何もできないでいる私に代わって救急車を呼んでくださいました。主人はたまたま通りかかった救急車で即座に病院に搬送され、処置を受けることができました。



開祖さま入寂会式典で説法をする高橋さん

その後、専門の病院を紹介され、検査の結果、脳の毛細血管に先天性の異常があることがわかりました。そのため、過度なストレスが加わったことで、痙攣の発作を起こしたのではないかと診断されました。主人は51年間、そのような病気を持っているとは知らずに過ごしていました。おかげさまで主人の意識はすぐに戻り、後遺症もなく、大事には至りませんでした。医師に、主人は赴任先のアメリカから一時帰国中のため、現地に戻らなければならないことを伝えました。検査の結果、医師から飛行機に乗る許可をいただくことができ、同時に英文の紹介状とMRIのCDをいただき、主人は倒れてから5日後、予定通り飛行機でアメリカに戻って行きました。

少し遅れて渡米する私は、日本で出発を待つ間「主人がまたどこかで発作を起こしてしまったらどうしよう。この際、徹底して治療してほしい」と思っていました。車の運転中だったら人さまを巻き込んでしまうかもしれません。次々と妄想が湧きあがり、不安でいっぱいでした。当時所属していた上尾教会の教会長さんは、「あなたが仏さまに近づくときですよ」と教えてくださいました。そのご指導を胸に、私はその年の4月渡米しました。以来、ニューヨーク教会で修行させていただいております。主人は病気の話をするのを嫌がり、自分は大丈夫なのに私が大げさ過ぎると怒りだす始末でした。治療を受けてほしい私と、受けたくない主人との距離を縮めることはなかなかできませんでした。

レキシントンに戻ってから8ヵ月ほどたった深夜、主

人は2度目の発作を起こしてしまいました。私はどうしたら良いか分からず、ノートン淑恵主任さんに連絡すると、夜中にもかかわらず、すぐに駆けつけてくださいました。本当に心強くありがたかったです。主任さんがわが家に到着されたときには、主人の症状はおさまっていて、本人は何事もなかったかのようにベッドに座っているのです。心配のあまり慌てふためいた私でしたが、相変わらず主人には病院へ行く気持ちなど全くないようでした。心配したノートン主任さんは、緊急時に受診できる病院の名前や連絡先などを調べて教えて下さいました。その後、子どもの同級生のお母さんで、病院と患者のコーディネーターをされている方に出会い、相談することもできました。その方のご主人は脳動静脈瘤専門の小児科の先生です。「何かあったらすぐに連絡して、力になるから」と言ってくださり、本当にありがたく思いました。仏さまに護られているように感じました。しかし、問題が解決したわけではありません。その後は常に主人の病気のことが気になり、幸せな生活を送らせていただきながらも、最悪の想定ばかりが頭に浮かび、いつも不安でいっぱいでした。

そんなある日、私はキーホルダーを紛失してしまったのです。キーホルダーには車のキーや、家や収納庫の鍵など、あらゆる場所の鍵が付いていたのです。どうしたら良いか分からず、身動きが取れない状態でした。どこでなくしてしまったのか思い当たる節がなく、不思議でなりません。まるで何かに隠されてしまったかのようにでした。

私はニューヨーク教会の藤田教会長さんにご指導をいただくことにしました。まず私は教会長さんに、私が鍵をなくしたとき、普段は私を大事にしてくれている主人から、よほど呆れて腹が立ったのか「もう話にならないね」と言われたことをお伝えしました。主人からそのように言われ、それにしてもちょっと悲しいなどは

思ったものの、「ミスをしたのは私なので、何を言われても受け入れようと思っていました」とお話ししました。教会長さんは、「そうだったの。あなたって偉いわね。日頃からあなたを見ていて本当に優しい奥さんと思っていましたよ」と言って、私の気持ちを認めてくださいました。さらに続けて教会長さんは、「あなたはご主人にどうしてほしいと思っているの?」と聞かれました。私は、「もちろん病気のことが一番心配ですので、治療を受ける気持ちになってほしいと思っています。また、主人は日頃から仕事を離れて楽になりたいと言っているの、少しでも早く退職させてあげて楽にしてあげたいと思っています」と答えました。教会長さんは、「あなたはご主人の気持ちにいつも寄り添おうとしているのね、素晴らしいことだわ」と言ってくださり、さらに「それではご主人はあなたにどんな奥さんでいてほしいか聞いたことある?」と尋ねられました。そのとき、私は主人とそういう話をしたことがなかったことに気づきました。そして、教会長さんから「今度、伺ってみるといいわね。鍵は心の鍵かもしれませんよ」とご指導いただいたことで、私は自分の思いだけで突き進んでいたかもしれないわが身を振り返ることができたのです。この日は、教会長さんに認めていただいたという思いで心が温くなり、また宿題をいただいた一日となりました。

その後、私は主人に「どんな奥さんになってほしい?」と聞いてみたのです。主人は、今さら何を言い出すのかと言った顔つきで、「はいはい、俺にかまわないでほっといてくれ」と笑いながら言いました。私は日頃から主人のそばで、身も心もサポートできる妻でありたいと願い、実際にそうできているものと思っていました。50歳を過ぎて初めて症状が現れた主人の病気については、「早く治療を受けて病気を治してほしい」と主人に要求する気持ちが私の本音でした。

「ほっといてくれ」という主人の言葉を聞いて、今までの私の強い思いが主人にストレスを与えていたかもしれないと感じました。もし、主人がすぐに治療を受けてくれていたら、私は主人が大好きなお酒を、「身体のために量を減らしたら?」と要求し、それができたら次は、「やめたらいいのに」と、次から次へと自分の思い通りにしようとしたに違いありません。教会長さんの言葉どおり、私の心が主人の心の鍵に合っていないことに気づきました。そんな一方的な私の思いを、主人は大きな広い心で受け止めてくれていたのです。それまで、私は目の前にある苦しさを取り除かれることだけを願っていました。日頃の身の回りのできごとは、すべて必要があって功德として現れてくるものと聞かせていただいていたおきながら、主人の病気を「悪」と見て、私はただ早く不安を取り除いてほしいと望んでいるだけでした。しかし、仏さまはいつも私たちの幸せを願ってくださっていたのです。主人の病気も、鍵をなくしたことも、私にとって必要があってのことと受け止めさせていただくことができました。大きな気づきをいただいたことで、私は今までになく心が軽くなったのを感じていました。

5月のことでした。主人が会社からの帰り道に追突事故を起こしてしまったのです。たまたま通りかかった警察官がすぐに駆けつけ、主人に話しかけてくれたそうです。ところが、主人は事故で動揺してパニック状態になってしまったらしく、自分の名前すら言えなくなってしまったそうです。警察官は主人の様子がおかしいことに気づいて救急車を呼び、主人は病院に運ばれました。お陰さまで、けがをした人は誰もいませんでした。連絡を受けた私は、日本でもらったMRIのCDと紹介状を手に病院に駆けつけ、主人は検査を受けることになりました。しかし主人は、「そんなもの見せなくていい。出さなくていいから」と言いながら、それまで見せたことのない満面の笑みで、「どこも悪いところはない

し病歴もないので、すぐに家に帰してほしい」と言っていました。普段の飲酒量を尋ねられても、実際の三分の一程度にしか答えていません。とうとう私は日本から持っていったMRIと紹介状を医師に渡すことができないまま、その日は検査を終えて帰宅することになりました。

1週間後に出た病院の検査結果は、日本の病院で受けた時と全く同じものでした。そのため、結果的に、主人はそれから定期的に通院することが決まったのです。その病院は、ノートン主任さんが勧めてくれた病院でした。また、子どもの同級生のお母さんが、「最高の病院だけど今すぐには入れないのよ」と言っていた病院だったのです。こうして、信頼できる医療機関で、主人は治療を受けられることになったのです。信じられないような仏さまのおはからいに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。事故を通して、私は仏さまの大きなはからいの中で生かされていたことに気づかせていただきました。現実はまだ変わっていません。しかし私の心は晴れ晴れとしています。

アメリカで生活を送りながら、私は開祖さまの教えのおかげさまで幸せをいただいています。開祖さまの足元にも及ばない私ですが、開祖さまのようなおらかなお人柄を目標に、日々精進してまいります。皆さま、ありがとうございました。



法座に参加する高橋さん(右から3番目)

Living the
LOTUS

The 7 Parables of the Lotus Sutra

長者窮子の譬え

妙法蓮華經 信解品第四



ある裕福な家に生まれたこどもがおりました。その子は幼いときに家から逃げだしたので、長い間他国で貧しい暮らしをしていました。父の長者は、唯一のこどもを失ってたいへん悲しみ、国中を探しましたが、とうとう見つからず、しかたなくその後、立派な屋敷にたくさんの召使いと共に暮らしていました。息子が五十歳のとき、あちこちを放浪するうちに、ひとりで自分の故郷に戻っていました。ある日、そこが父の家とも知らずに、大きな屋敷の前にたたずみました。屋敷の中をのぞくと、驚くほど美しく荘厳で、「こんなところには、つかまえられてひどい目にあうかもしれない」と、恐ろしくなり、その場から逃げだしました。



長者は、一日もわが子を忘れたことはありませんでした。屋敷の中から息子を見たとき、一目で自分のこどもであることがわかりました。急に走り出した息子を見て驚き、召使いに、その男を連れてくるように伝えました。息子は捕まえられると、恐ろしさのあまり気を失ってしまいました。長者は、息子を無理に連れてくるのは諦め、その後、みすばらしい姿の二人の召使いを息子のもとに遣わせました。息子は、屋敷の便所掃除の仕事に誘われ、安心して屋敷で働きだしました。長者は、自分も汚い身なりをして一緒に働きながら、息子に近づき、「私はおまえを本当のこどものように思っているよ」と言って、新たな名前をつけてあげました。



それから二十年、汚いところの掃除を続けた息子は、ようやくその家に心安さを感じてきましたが、まだ卑屈な気持ちのまです。その後、長者が病気になり、死期を悟ると、宝の入っている蔵の管理を息子に任せました。息子は、仕事をするうちに、家の財産のすべてに通じてきて、次第におどおどしなくなりました。息子の心を悟った長者は、臨終の間際に、屋敷中の人をすべて集めて、「実はこの男は本当の息子です。わたしの財産はすべてこの子のものです。」と宣言しました。息子は、「こんな財宝を求める気持ちは少しもなかった。ひとりですべてが自分のものになった。」と、かつて覚えたことのない大きな喜びを感じたのでした。



長者は仏さま、窮子は私たちの姿です。私たちは、仏さまのふところから抜け出して、苦しみの中をさまよい歩いています。しかし、いつしか「ひとりでに」親である仏さまに近づいていくのです。自分で気づかなくとも、私たちにはみな、仏性が備わっているからです。そんな私たちを見たとなん、仏さまはしっかりと、自分のこどもだと気づいてくださいます。いつも私たちのことを想ってくださっているのです。

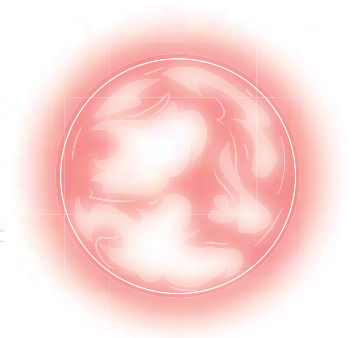
仏さまは、すぐに私たちを悟りへ導こうとしてくれるのですが、私たち衆生は、「とても自分が近寄れるところではない」と、背を向けてしまいます。そこで仏さまは、方便を使って、私たちが安心する形で、おそばにおいでくださいます。便所掃除の仕事をするということは、自分の煩惱を除く修行を積み重ねた、ということです。

二十年という長い時間、修行を重ねた窮子は、それでもまだ、卑屈な心を抱えています。仏さまに、「自分のこどものようだ、名前をつけてあげよう。」とまで言っていただいても、やはり自分と仏さまとの間に一線を引いているのです。修行の末、仏の教えに広く通じるようになり、宝の支配人になるのですが、宝が自分のものだとは思っていません。自分にも仏性があることに気づくことができないのです。

教えを行じて、少しずつ自信をつけた私たちに、仏さまは、「仏と衆生は親子です。みんなが仏になれるのです。」と教えてくださいます。そうしてようやく、自分は仏と一体であることに気づくことができたのです。

私たちは、すでに「法華経」に出合っています。まわり道をしなくても、すぐに仏さまのふところに飛び込むことができるのです。それにはまず、自分の卑屈な精神をなげうつことです。心をのびのびともち、「自分も仏になれるのだ」「自分はこの宇宙と一体なのだ」と、自分に言ってみましょう。そして、法華経を信じ、行じていくことで、自分に確固たる自信が湧いてきます。苦しみに出合ったときは、窮子と一緒に汚い恰好をして、掃除をしている仏さまを思い出してください。仏さまは、いつも私たちのそばにいてくださっているのです。

(中央学術研究所 監修)





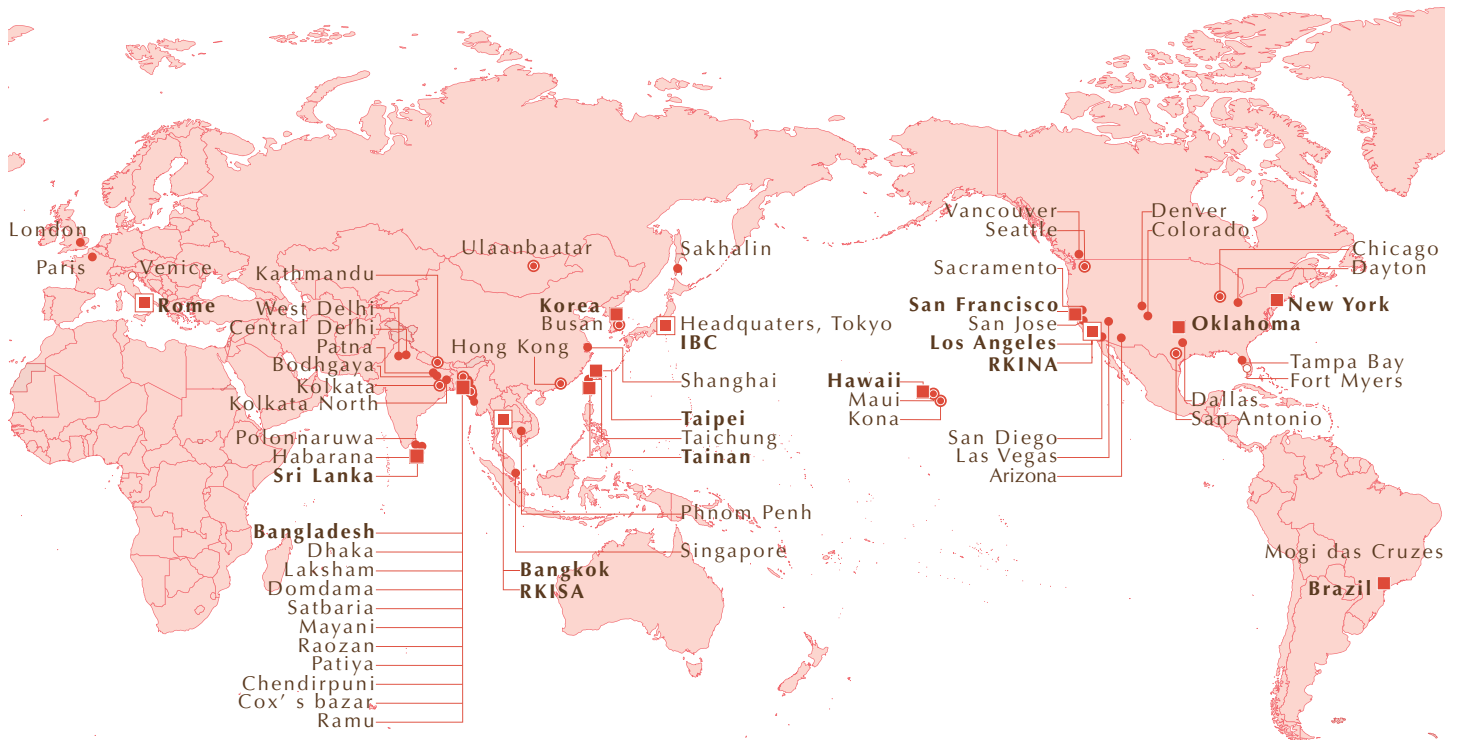
一瞬一瞬を大切に生きる

新たな年を迎えごあいさつ申し上げます。皆さま、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、新年を迎えると不思議と心新たにになりますね。たった一日しか前の年と変わらないのに…。何故でしょう!? でも、その節目があることが大事なのかもしれません。

会長先生は『心田を耕す』の中で、「一瞬一瞬がまったく新しく、一日一日が人生で初めてであり、今日という日は後にも先にもない、最高の日です」とお話しくださっています。今日の自分は、一生に一度の自分です。いま目の前の人との出会いも、最初で最後の出会いです。新しい年のスタートにあたり、常に、「いま」を大事に、一つひとつの出会いを大切にしていきたいと思います。できれば、明るく、楽しく、朗らかに！

国際伝道部長
齋藤 高市



🌸 RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES 🌸



Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers

2018

Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A.
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX 78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951 *Fax:* 1-650-359-6437
e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
<http://home.earthlink.net/~rkchi/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: rissho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Zhongzheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Taichung

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Rissho Kosei-kai of Pingtung

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

224 Site No.1, Shankar Road, New Rajinder Nagar, New Delhi,
110060, India

Rissho Kosei-kai of West Delhi

66D, Sector-6, DDA-Flats, Dwarka, New Delhi 110075, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai